

第7回湧別川ほか減災対策協議会 議事概要

日時：令和3年7月26日（月）14：00～16：00

開催方法：WEBによる開催（Webex）

出席者：遠軽副町長、湧別町長、網走地方気象台長、陸上自衛隊第25普通科連隊2等陸尉、北海道警察北見方面本部警備課長補佐、遠軽警察署警備係主任、遠軽地区消防組合消防本部消防長、北海道電力株式会社旭川水力センター遠軽土木課長、北海道オホーツク総合振興局副局長、網走開発建設部長

《議事内容》

（1）講演「なぜ常呂川流域タイムラインが必要なのか」

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター客員教授 松尾一郎

※ビデオ上映～「第7回網走川ほか・常呂川減災対策協議会」

（令和3年7月5日開催）より

- （2）幹事会報告
- （3）取組状況のフォローアップ
- （4）情報提供
- （5）意見交換
- （6）今後のスケジュール

【事務局からの説明を踏まえた、各機関からの意見】

（遠軽町）

- ・遠軽町では、6月30日に図上訓練を実施した。10月には総合防災訓練を予定している。
- ・6月30日の図上訓練では、通常と異なりコロナ禍ということで、人数を制限して約7機関、50人の参加で実施した。その中で、ほくでんネットワーク北見支店から、北電として遠軽町内の避難場所において災害時の電源確保を進めているという情報提供が寄せられた。
- ・本年度、防災ガイドマップの作成を予定している。湧別川上流域の浸水想定区域の見直しに伴い、今年度の3月までにガイドマップを新たに作成して、町民に配布したいと考えている。
- ・第4回湧別川ほか流域治水協議会の中で言及があった遠軽大橋の堤防強化については、整備による浸水被害の解消を期待している。併せて遠軽町では、内水氾濫箇所での雨水貯留管等の整備を実施している。
- ・遠軽町独自の減災対策として、来年3月完成予定で、緊急防災資機材等の備蓄車庫等の建設について事業を実施している。工事費は2か年で約8億5,000万円である。近年頻発する局地的なゲリラ豪雨への対応や、平成28年の台風7・9・11号の3つの台風により、遠軽町の約8割、1万5,000人の給水人口を抱えている清川浄水場に4,000m³/sを超える高濁度の原水が流れ込み、断水寸前に追い込まれる事態となった経緯から、5,000m³/sの滞水池の整備による水道の強靱化を図ると同時に、貯水池の上流側に防災資機材の備蓄庫を設置する。
- ・今後も関係機関とともに減災対策に臨んでいきたいと考えているので、引き続き協力をお願いしたい。

(湧別町)

- ・湧別町は、湧別川の一番末端の河口に位置しており、上流から河口付近を目がけて、毎年様々なものが流れてくるため、出水時期に非常に邪魔になる状況である。先日も漁業組合を含めた関係機関の支援をいただきながら、大きなものは除去したという状況である。町内の河口に近い部分については、毎年そのような形で清掃を実施している。
- ・ハザードマップを利用して、災害というのはいつ来るか分からない、自分のものとして捉えなければならないという啓蒙活動を、各地区の自治会あるいは老人クラブ含めて実施している。
- ・災害対策基本法の改正による避難指示への一本化については、発令側としては非常にやりやすくなったという気がしている。今までの避難勧告、避難指示の運用では、特に地域住民である受け手にとっては何が違うのか説明してもなかなか分かってもらえない部分が多かった。一本化になったことを踏まえ、情報発信が無駄にならないよう、受け取り側である地域住民への周知をしっかりと実施していかなければならないと感じている。
- ・いつどのような災害が起きるか分からない状況下で、最悪のことを想定しながら、我が町の住民の生命や財産を守る方法について考えていかなければならない。関係機関の皆様には今後とも様々な面でお世話になるが、情報共有をしながら乗り切っていきたいと考えている。

(網走地方气象台)

- ・オホーツク地域では、今年は6月以降非常に雨が少ない状況が続いている。一方、本州や九州では大雨となったところもあり、静岡県熱海市では土石流によって大きな被害が出ている。
- ・台風8号は関東や東北に接近する予想になっている。東北地方では、多いところで明日27日朝までの24時間で100mm、明後日28日朝まで100mmから150mmの雨量が見込まれている。
- ・台風8号については、オホーツク地域への直接的な影響はない見込みである。一方で、近年では、平成28年のように北海道にも台風が相次いで接近するケースも出てきている。
- ・台風の特徴は、熱帯の空気及び水蒸気を伴って北上してくるということである。台風が接近する地域においては、普段は流入しないような高温で湿った空気が運び込まれることになるため、台風の接近時に大雨に対する警戒が必要な大きな要因となっている。
- ・気象庁では、アメダスによる観測を1970年代から行っている、40年余りの観測を振り返ってみると、渚滑川の流域あるいは湧別川の流域では、1日の既往最大雨量として約150mmから200mmのオーダーで記録が残っている。
- ・近年、河川の改修や施設の整備等が進んでいるので、既往最大と同程度の雨量で渚滑川や湧別川に直接的な影響が出ることは考えにくいですが、主要河川の増水により、流れ込む支流や内水への影響は十分に考えておかなければいけないと考えている。
- ・網走地方气象台として、近年の全国的な大雨の状況を踏まえて監視を行い、適切な情報の提供、雨量の見通し、タイミング、実際の雨量の観測状況など、気象観測、気象予測の観点から関係機関に協力していきたいと考えている。

(陸上自衛隊第25普通科連隊)

- ・各関係自治体が発している防災訓練に参加している。また、自衛隊独自の取組として、フォローアップ資料に掲載のボート等の防災用機材の点検を含めた訓練を実施している。
- ・自衛隊では、ボートや災害用ドローン(UAV)等を保有している。

- ・体制は、常に24時間、いつでも1時間以内に最大30名を派遣できる状態になっている。当直勤務により24時間連絡が取れる体制になっており、災害対策本部の立ち上がりには合わせリエゾンが派遣される形になっている。
- ・要望があれば、防災訓練等、様々な機会に我々の装備を持っていき、実際に目で確認していただくことを考えている。引き続き機会等あればお声がけいただきたい。

(北海道警察北見方面本部) (遠軽警察署)

- ・水難救助訓練をはじめとした各種災害警備訓練を行っている。
- ・先日、熱海にも部隊を出して捜索および救助活動を実施した。今後は、特に土砂災害の現場における救助訓練に力を入れたいと考えている。
- ・気象台職員を講師として招き、警察官の防災意識の向上及び知識の習得を目的とした教養セミナーを開催し、北見方面本部のみならずオホーツク管内の各警察署が参加した。同時に、警察署員が中心となって教養セミナーで得た知識を地域の方へ伝達する活動も行っている。

(遠軽地区消防組合消防本部)

- ・遠軽町からお話があった図上訓練については、毎年本部から参加している。
- ・消防指令システムを使った災害発生情報を消防職員および消防団員に迅速に伝達し、災害招集を毎年続けており、今年度以降も継続して行いたいと考えている。
- ・水防活動の関係では、消防団と合同で過去に災害が発生した場所及び工事箇所等を確認している。また、水防用の資機材についても毎年補充している。

(北海道電力株式会社 旭川水力センター)

- ・当社で管理するダムは発電専用の利水ダムであり、洪水調節をするような治水機能は持っていない。ダムの運用については、監督官庁の許可を得た規定に基づき、関係市町村に通知、通報、放流警報の吹鳴、並びに下流パトロールを行っている状況である。
- ・当社の減災の役割は、主にダムの情報提供であり、これまで通り確実に通知、通報等を行い、事故のないよう連携を図っていきたいと考えているため、引き続き協力をお願いしたい。

(オホーツク総合振興局)

- ・今年度、湧別川の道管理区間を新たに水位周知河川に指定したほか、昨年度までに危機管理型水位計及び簡易型監視カメラの設置を完了している。地域住民の円滑な避難の実現に向けて水防活動及び避難判断を補足する情報提供の強化を図っており、皆様にもご活用いただきたい。
- ・また、防災訓練や研修会のサポートも引き続き行っているため、訓練などについてお困りの市町村があれば、ご相談いただきたい。今年度も引き続き取組方針に基づいて各種取組を着実に進めていくため、関係機関の皆様と連携して取り組んでいきたいと思っている。

以上